

第3期第1回横浜市子ども・子育て会議放課後部会 会議録

日 時	平成29年7月11日(火) 14時00分～16時00分
開催場所	横浜市役所8階 8A会議室
出席者	明石要一部会長、橋本ミチ子副部会長、大野功委員、熊谷浩伸委員、藤井千佳委員、丸山智美委員、工藤春治委員、世古正樹委員、森佳代子委員
欠席者	小松眞委員、永井萬里子委員
開催形態	公開(傍聴者5人)
議 題	<議事> 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について
決定事項等	横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について、事務局案を放課後部会として了承した。

<議題>

横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について

(事務局) 資料5～資料10に基づき説明

(大野委員) 事業者アンケートの回収率は、放課後キッズクラブ、放課後児童クラブの両方とも全てのクラブが回答しており、日ごろから放課後キッズクラブ及び放課後児童クラブの両運営に対して、事業者の児童への温かい熱意や事業に取り組む積極的な姿勢がうかがえます。

また、利用者アンケートの回収率では、放課後キッズクラブが67.3%、放課後児童クラブが66.6%ということで昨年を上回っており、非常に高い回収率であると思います。このことは、事業に対する保護者の期待が非常に大きく、関心も高いと言っても過言ではないと思います。事業者や利用者へのアンケート調査について、今回の一連の作業、分析に当たられました職員は、御苦労されたことと思います。ありがとうございます。

放課後キッズクラブでは、利用者側から開所時間を延ばしてほしい旨の要望が出ており、事業者側からは、職員確保に苦労しているという意見がありました。放課後児童クラブでは、利用者側から利用料が高額であり親にとって負担という意見があり、事業者側からは、分割・移転などによって環境面、あるいは支援内容についてよくなったとある一方、職員配置に課題があるという意見が明確に出ております。これらの要望や意見につきましては、何か手だてやサポートは考えておられるのでしょうか。

また、放課後キッズクラブは計画以上に転換を進めているにもかかわらず、B評価にしたのはなぜでしょうか。計画以上に進んでいるので、A評価でもよいのではないのでしょうか。また、アンケートから高い評価を受けているのに、有効性についてもB評価ということですが、その理由について御説明いただけますでしょうか。

(事務局) 進捗状況については、放課後キッズクラブの転換については予定を上回る実績がある一方、放課後児童クラブについては、当初予定よりも若干低い実績だったということで、B評価で御提案させていただきました。また、有効性のB評価についても、満足度という意味では90%を超える御評価をいただいておりますが、自由記載欄では、今後さらに検討すべき課題もあるという御意見をいただいたので、B評価にさせていただきました。

放課後キッズクラブの開所時間や利用料については、今後、利用者の声を改めて聞く機会を設け、施策としての妥当性を慎重に評価していくことも必要と思っており、時間をかけて検討していきたいと思っております。

職員配置の難しさについては、放課後キッズクラブだけでなく放課後児童クラブからも意見をいただいております。本年度、国の補助制度を活用し、公費の中で放課後児童支援員の経験を評価する、いわゆるキャリアアップの加算を活用し、給料の面で少し保障を手厚くする取組を考えております。また、職員の確保については、従前から県が、県内の政令市等とともに、「保育士・保育所支援センター」を運営しています。保育所だけでなく放課後児童クラブなどでも利用できるということで、相談があったときには御案内させていただいております。大きな課題ですので、さらに有効な施策がないか、今後、探ってまいりたいと思っております。

(橋本委員) 放課後キッズクラブの預かり時間の延長については、おそらく保育所から来た人たちの意見だと思います。保育所は朝7時から預かっており、夜20時まで預かっています。頼まれれば21時とか22時まで預かっているところもあるようですが、その延長で放課後キッズクラブが受け入れていいのでしょうか。放課後児童クラブも19時までですが、20時や21時までお願いするという場合は、個人的に職員にお願いして、対応をしてもらっているところがたくさんあると思いますし、その一方、横浜子育てサポートシステムでは、家に帰ってくるのが遅い親のために個人的に預かってくれる人を紹介したりもしているので、一律に放課後キッズクラブで対応するというのは違うような気がします。

(明石部会長) 全てアウトソーシングしたい気持ちはわかるが、それでよいのかということを懸念しているのですね。だから、開所時間は19時までという一定の基準をつくり、あとは個別にお任せするということがいいだろうと。新しく委員になられた方々は何かご意見がありますか。

(藤井委員) 保護者が働いているので、どうしようもない部分はあると思うのですが、やっぱりお子さんが成長する過程で、家庭外で21時、22時まで預かっていただくというのは本当にいいのでしょうか。横浜子育てサポートシステムは有料ですが、自宅でサポートをしてくれる方を見つけて来ていただきたいと思います。子どもにとって一番いいのは何なのかというところを一番大事にしたいなと思います。

(熊谷委員) 質問ですが、プレイパーク支援事業の「支援回数」は1人1回なのですか、それとも団体で1回とカウントするのでしょうか。

(橋本委員) 利用者数ではなく、24カ所で開所した合計が1233回ということです。

(熊谷委員) わかりました。アンケートに関しては、楽しんでいる、満足しているというのが大多数ではあるのですが、何を楽しんでいるのか、何で満足しているのかというのが見えていません。今後のとり方としては、例えば地域連携という観点でどうですかとか、指針に沿った評価項目に対してどうですかという、答える側も施策を理解しつつ評価するといった形のアンケートにしていってほしいというのがフィードバックしやすいと感じました。

(明石部会長) 非常に大事な御意見だと思います。先ほど19時までよりも20時にしてほしいとかという御意見がありますけれども、それに対して、熊谷委員は何か意見はありますか。

(熊谷委員) それぞれ短所と長所があると思います。放課後児童クラブは1人1人に対して手厚いとか、放課後キッズクラブは生活の場としては力不足があったり、横浜子育てサポートシステムが一番家庭的なのかもしれないけれども大勢で遊んだりイベントは苦手とか、メリット、デメリットをそれぞれ持ち合わせているので、その連携について、評価項目として挙げてほしいと思います。

(丸山委員) アンケートの回答者は、アンケートの結果を知りたいのではと思います。施策等で反映していただければと思いますが、放課後キッズクラブや運営法人へ、クラブのアンケート結果をお伝えするのですか。

(事務局) アンケートの結果について、各クラブごとの結果まではお伝えしていません。本市の施策として

の全体の傾向をつかむのが趣旨だと考えておりますので、個別のクラブの課題について、事業者に対して示すということまでは想定していません。

(丸山委員) 例えば朝7時半から預かってほしいという意見がありますが、朝8時以降でない学校の施設を利用できないという決まりが学校にあります。利用されている保護者と放課後キッズクラブがきちんと理解されていれば、このようなアンケートの結果は出てこないような気がします。なので、このアンケートの結果について、利用者と実際運営されている方にもフィードバックしていただけたらと思います。

(藤井委員) 行政の支援について「父母会運営のため、役員をやらなければならない。特に給与計算と振込作業」とありますが、私は放課後児童クラブの運営委員をやっておりまして、何年前か前に、有料ですが委託できるということでしたので、どうしてこういう意見があるのかなと思いました。

(事務局) 給与計算等のサポートですが、平成26年度に港南区でモデルケースとしてやっていたという実績はありますが、現時点ではそういったサポートは横浜市では御用意はしていません。ただ、社労士や税理士への外部委託の費用について、補助金の中から支出をしていただくことは可能です。また、社会保険料等々、非常に複雑なシステムでございますので、社労士会と連携し、各クラブからメールやファクス等で社労士会へ御質問いただいて、専門家からのアドバイスを受けていただくというシステムを無料で御案内してございますので、そういったものをマニュアルの中で各クラブへお示しをしています。

(森委員) 親の介入がなくていいというところがとてもひっかかりました。自由意見の中で「保護者がキッズクラブに足を運んでいただけるように考えていきたい」という職員の御意見がありましたが、親が介入するから楽しい、見えるようになるから安心がさらに高まるというような意識を持っていただけるような運営をすることが本当に大事だと思いました。

あと、アンケートの対象が利用区分2に登録されている方ということなので、個別支援級在籍のお子さんに関しては、このアンケートの対象から外れてしまっている可能性が高いと感じました。「横浜障害児を守る連絡協議会」で聞き取りをしたときには、放課後キッズクラブで付き添いが必要と言われて、週2回、6カ月付き添ったけれども、結局一人で利用することを了承されることはなかったため、放課後キッズクラブを辞めて、放課後等デイサービスを勧められたということをおっしゃっている保護者がいました。また、はまっ子ふれあいスクールから、個別支援級に通っている子どもで利用している子はいませんと言われ、付き添いをするという誓約書のようなものを書いてもらえませんかと言われた保護者もいます。チーフや主任の方の理解は大変に進んだようですが、実際に対応してくださる職員の理解が進まないという声も上がってきていますので、その辺のこともアンケート等で反映されてくるといいかなと思います。

(事務局) 利用者アンケートの対象が利用区分2の登録児童の保護者ということで、意見としては多くはなかったというところはあるかもしれません。いただいた個別事案については、確認していきたいと考えております。平成28年度から放課後キッズクラブ、放課後児童クラブについて、国の障害児加算補助制度の拡充に合わせ、横浜市も拡充させていただいております。横浜市の実施する障害児の基礎研修を受講した職員を配置することを条件に、人件費としての加算を拡充させていただいており、29年度も引き続き拡充しております。まだ現場の意識がなかなか徹底していない部分があるという御指摘をいただきましたが、今後とも、研修の実施と加算の充実という形で受け入れを拡充していきたいと考えております。

(森委員) 小学校こそ、障害がある子もない子もともに過ごせると思います。中学校になると、障害がある子との違いを認めてもらうようになるのですが、小学校、特に低学年ぐらいまではともに過ごせる場であると思っております。

(橋本委員) 放課後キッズクラブの自由意見で、「いろんなイベントをしていただいている」というのは、いかにも親の意見だなという気がしました。イベントが楽しくて行くという子はたくさんいるのですが、イベントだと強制参加になるから嫌だという子もいて、その日は放課後キッズクラブに行かずプレイパークに流れてくる子が多いのです。

それから、宿題などについて、「帰宅後に宿題をやる時間がない」からというもの、親の意見だなと思います。「勉強の時間があると良い」ともありますが、放課後児童クラブだとできるかもしれませんが、放課後キッズクラブでは難しいのではないのでしょうか。宿題をやりたければ、来てすぐ本人の意思でやるべきであり、一斉に宿題をやる時間をつくるというのは違うと思います。保護者が全部お願いするようになってしまっただけは、親として育たないなと思います。もし宿題をやらせたいのなら、例えば、中学校で寄り添い型生活支援事業というのをやっていますが、学習が遅れがちの子に対して、学校の放課後に週1回でもいいから一緒に学習する時間をとるといようなかたちで勉強する習慣をつけるほうが、参加したい人が参加できると思います。本当にお金のない親の子どもは、放課後キッズクラブにも放課後児童クラブにも参加することができません。

(大野委員) 生活を「楽しんでいる」と回答した方が放課後キッズクラブ、放課後児童クラブともに9割を大きく超えております。お子さんがキッズクラブや放課後児童クラブで日常生活を楽しんでいるということで、親御さんにとっても非常に安心感を持たれているのではないのでしょうか。それから、「施設・環境について満足していますか」という設問についても「満足している」と回答している方が放課後キッズクラブ、放課後児童クラブともに、非常に高い評価の数値が出ており、質の部分はかなり高い評価を受けたということは、大変喜ばしいことではないのでしょうか。

また、「どのように感じていますか」という設問については、放課後キッズクラブにおいては「学校内にあるため安心」が95%、「19時まで預かってもらえる」が70%、さらに「職員がよい」ということも55%以上から70%とあり、すばらしい運営がなされているということが象徴的な面としてあらわれていると思います。また、放課後児童クラブについては施設の安全性や安心感など、利用の便利さや恵まれた環境の中で子どもたちが生活していくことが結果として評価されていると思います。ただ、「プログラムが充実している」の項目については、放課後キッズクラブは20%台、放課後児童クラブについては10%から20%と低い評価なのですが、何か原因や理由があるのでしょうか。

それから、放課後キッズクラブの事業者アンケートの中で、「キッズ転換したことで、児童の放課後の居場所の質が向上したと思いますか」ということについては昨年度とほとんど変わらず高い評価を得ていますが、その理由について、プログラムの充実が最も多い項目なのですが、充実とは具体的にどのような内容なのでしょうか。また、このプログラムにつきましては、市が統一したプログラムを放課後キッズクラブに提供しているのか、あるいはクラブが独自で策定しているのか、お伺いしたいと思います。

(事務局) まず1点目ですが、保護者アンケートの結果の質の部分の評価についてですが、好意的な評価が多く、質についても御評価いただいていると認識しております。ただ一方で、皆さんからも御意見がありましたように、自由意見欄には非常にさまざまな視点からの意見や要望等があり、放課後キッズクラブ、放課後児童クラブに対しての市民からの期待についてはさまざまなものがあると認識しています。なので、委員の皆様からの意見等も踏まえて、放課後キッズクラブ、放課後児童クラブのよりよい放課後のあり方について今後とも検討して、よいものをつくっていきたいと考えています。

2点目、利用者アンケートの項目で、放課後キッズクラブ、放課後児童クラブともにプログラムの項目が低くなっているというところについてですが、放課後キッズクラブについては、保護者の方が放課後に

求める最優先事項は、保護者のいない放課後の時間を安全な居場所で預かってもらうことというのが垣間見えるところです。その上で、プログラムをもっとやってほしいという項目が、先ほどのように19.3%で非常に多かったのは、まず最優先すべきは、安全な環境で預かってもらうこと、そしてその中身をもっと充実してほしいという順番と分析しているところです。放課後児童クラブについては、疑似家族関係とも放課後児童クラブは言われておりますが、人間関係の中でふだんの生活、放課後の生活の場所として機能することが、保護者の方が放課後児童クラブの魅力として捉えて評価されているのではないかと考えているところです。

最後に、放課後キッズクラブのプログラムについてですが、基本的には、本市が運営マニュアルを各クラブに配っており、例えば連続性のあるプログラムとか、発達段階に応じたプログラムというような視点を各クラブに御紹介させていただいております。それを踏まえ、各クラブ、各運営法人が創意工夫を凝らして、各プログラムを実施していただいているところです。今回のアンケートの結果に出てきたクラブの中で、プログラムの充実についてが事業者アンケートで高かったことについてですが、28年春から開始した47クラブのうち26クラブは、これまで放課後キッズクラブを運営していた法人が新たに放課後キッズクラブを運営したものです。半分以上は放課後キッズクラブの運営経験のある法人ですので、ノウハウの蓄積を持った運営法人が新たに放課後キッズクラブを実施することで、既存クラブのプログラム等を参考に、新たなクラブにも適用して活動を広げていることで、プログラムの充実が事業者アンケートで高い評価を得ていると想定しています。

(世古委員) 学校としては、放課後、子どもたちが安心して過ごせる場所が確保されているということはずごくありがたいと思います。放課後キッズクラブにしても、放課後児童クラブにしても、プレイパークにしても、やっぱり放課後子どもが帰って、安心して過ごせるということは何よりの安心につながります。3年間小学校で副校長をしていたのですが、その学校では放課後キッズクラブも放課後児童クラブもありました。放課後キッズクラブ、放課後児童クラブで何か起きた場合は、基本的にはクラブの中で解決していることが多かったのですが、クラブ内で解決できない場合は、お互いが情報共有して、学校、放課後キッズクラブ、放課後児童クラブでのことが共有できるようにしていました。

その点からすると心配なのが、学校との関係の項目にある、2つの全く反対の意見についてです。1つは「学校との連携がうまくできない」、もう片方は「学校とも良い関係でアドバイスをもらうことができている」とありますが、これが現状なのだと思います。放課後キッズクラブで何か起きた場合、基本的に放課後キッズクラブで解決しているが、なかなか難しく、学校として対応しなければいけないことが増えてきているというのは、指導主事という立場で聞いています。ですので、学校もいろいろな場面に顔を出して、先生方も情報発信、情報共有していかなければいけないなということを知り、今回のアンケートを見て感じました。

もう1つ、保護者の立場で言いますと、放課後キッズクラブと放課後児童クラブのそれぞれ良さがありますが、2つの事業の違いは、1つは費用の問題で、もう1つが親の負担のことかなと思います。放課後児童クラブだと保護者の負担が大きいと思われる方は放課後キッズクラブを選び、忙しい中でも時間をつくることのできる家庭で、保護者の負担はあるけれどもそれは子どものためになると思う方は放課後児童クラブを選んでいきます。どちらがいいというわけではないですが、その違いによって選択していると思いました。

楽しさについて、割合で言うと放課後キッズクラブのほうが多いのですが、学年が上がっていくと放課後児童クラブのほうが上がっています。満足の内容も、放課後キッズクラブのほうは学校内であることや

19時までということ、放課後児童クラブは職員とのつながりとか縦のつながりがあることと回答しており、求めているものがそれぞれ違ってくるのがこの結果にあらわれるのかなと思いました。また、神奈川新聞の記事に、放課後児童クラブの移転問題ということで、放課後児童クラブが掲載されていましたが、その中で、放課後児童クラブの職員の方は「放課後児童クラブの魅力は保護者がつながっていること」と言っていました。放課後児童クラブは子どもも預けるけれども、その分、親も一緒になって学んでいけるというよさがあるのだと思います。ただ、生活スタイルはさまざまなので、それぞれの生活スタイルと、それぞれのニーズに合った安心できる場を提供していくのが大事だなということを感じました。

(工藤委員) 親の意見については、いろいろな意見が出ますので、全部耳を傾けるというのはいけません。1つお聞きしたいのですが、鶴見区では、自分の学区内の小学校に通えていない子どもがいるんです。そういう子どもは、地元の別の小学校に通っているわけですが、別の小学校の放課後キッズクラブや放課後児童クラブを利用することになるんですか。

(事務局) 学区外通学については、自分の通っている小学校のはまっ子ふれあいスクールまたは放課後キッズクラブを利用することになります。放課後児童クラブについては、学区を設けていないクラブが多いので、おそらく任意で選ばれると思います。

(森委員) アンケートの集計はどのように行ったのですか。

(事務局) 基本的に利用者アンケートは保護者の方に、お迎えに来てもらったときにお渡ししたりしています。また、集計は紙と電子申請の両方をやっております。紙で回答する場合は、封筒をお渡ししておりますので、無記名で封緘をして職員に出していただくようにしています。封筒を封緘したまま放課後児童育成課に渡していただくようにしており、匿名性を担保しています。

(明石部会長) 昨年は回答率が40%だったのが、今年は60%で20%も増えています。この20%というのは大きいですが、何か工夫がありましたか。

(事務局) 電子申請システムを導入したところ、電子申請で返答があったのが191件あり、電子申請の分、回答率が上がったことが見受けられます。

(明石部会長) 放課後キッズクラブは職員の確保が難しく、放課後児童クラブは日々の職員配置が難しいというのが課題となっており、職員に対する悩みは両方ともあるのですね。今後、市として、スタッフの研修や採用について考えていただきたい。

(事務局) 基本的には、職員の確保は事業者が主体となって確保すべきものと考えております。本市としては、保育士・保育所支援センターの案内等、間接的な支援に取り組んでいます。職員の育成については、放課後児童支援員という資格が平成27年度からできました。現在、神奈川県が主体となり、放課後児童支援員の認定資格研修を毎年実施しております。保育士資格等を有する有資格者で、所定の研修を受けた放課後児童支援員が、放課後児童健全育成事業の職員として配置されることにより、質の担保を図るのが国の制度としてあります。そのほか本市としては、人材育成研修を行っており、通年で70コマ弱、障害理解やアレルギー対応といった、放課後事業の運営や活動に当たって必要となる項目について、研修を実施しております。そういった研修を今後もより充実させ、各事業所の職員育成に努めていきたいと考えております。

(明石部会長) 放課後キッズクラブ、放課後児童クラブ、プレイパークのいずれにも行っていない、家庭でひとりぼっちでいるお子さんがどのぐらいいるのか、把握するのは難しいかもしれませんが、今後、必要な視点になってくると思います。

それでは、横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価については、事務局の原案どおりでよろし

いでしょうか。

⇒ 事務局案のとおり了承された。

横浜市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

(事務局) 資料11に基づき、説明

(明石部会長) 要するに、横浜市子ども・子育て支援事業計画の量の見込みと確保方策について、中間見直しをし、30年の3月に確定したいということで、次回の会議で原案が出てくるということですね。

(大野委員) 次回の開催は、8月ということですか。

(事務局) 事業計画の中間見直しに当たる今年度、量のニーズの部分を考えていく部会を8月末ごろに開催させていただきたいと考えております。日程調整の連絡については、また放課後児童育成課から御連絡をさせていただきたいと思います。

資料	資料1	横浜市子ども・子育て会議放課後部会	委員名簿
	資料2	横浜市子ども・子育て会議放課後部会	事務局名簿
	資料3	横浜市子ども・子育て会議条例	
	資料4	横浜市子ども・子育て会議運営要綱	
	資料5	平成28年度	横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について
	資料6	横浜市子ども・子育て支援事業計画	点検・評価案 (基本施策①・基本施策②)
	資料7	横浜市子ども・子育て支援事業計画	点検・評価アンケート用紙
	資料8	利用者アンケート報告書	(放課後キッズクラブ・放課後児童クラブ)
	資料9	事業者アンケート報告書	(放課後キッズクラブ)
	資料10	事業者アンケート報告書	(放課後児童クラブ)
	資料11	横浜市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて	
	資料12	【参考】	昨年度の点検・評価アンケート報告書一式
特記事項	本日の議事録は、各委員に確認していただいた後、ホームページで公開する予定です。		